

# 嬉望

第10号  
平成27年1月29日  
兵庫教育大学  
教職大学院  
学校経営コース  
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



大学マスコット

## 課題発表と向き合う

2015年、最初の嬉望です。随分とご挨拶が遅くなりましたが、今年度も院生へのご支援、ご鞭撻を宜しくお願い致します。

一年生の後期は、講義のほとんどが「学校経営」「教育行政」に関する専門科目の授業です。一層、意欲的に取り組み、様々な知識を得、見識を深めることができました。

特に、各種レポート等の課題に取り組んだ時間が、大きな学びとなっております。複数のレポートの提出（発表）が重なることもあり、かなり大変ではありましたが、しかし、教職大学院で学ぶ院生として非常に良い経験を積むことができています。

### 『研究開発学校実施希望調査書』 カリキュラム開発と学校の特色づくり

カリキュラム研究を専門とされる安藤福光准教授の科目です。カリキュラム開発やカリキュラム評価についての様々な専攻論文を輪読、考察する中で、カリキュラムに関する基礎的な理論や開発の手法について学びを深めました。また、外部講師の方に講義頂く機会も多く、様々な視点で考えることができました。

その集大成として、校種ごとに3〜5人のチームに分かれて、文科省から研究開発学校の指定を受けるべく、「実施希望調査書」を作成し、発表するという模擬演習を行いました。

新聞を教材とし、その情報を相互作用的に用いる力を育成する新教科「NICE (Newspaper In Creative Education)」で、教科横断的学習を行う中学校チーム。キャリア教育として「わくわく体験（アルバイト体験）」を教科課程に位置づけ、社会的・職業的自立への能力と、望ましい勤

労働の形成を図る高校チーム。自然科学・工学分野の探求活動や、国際的なコミュニケーション能力育成をねらった「宇宙科」を創設し、宇宙飛行士を目指す小中一貫校チーム。

東京オリンピックでのアスリートを育成することを第一義とし、体力や運動技能の向上、スポーツ理論の学習等に特化して取り組む中高一貫校チーム。：などなど、様々な研究開発が提案される中、「命の尊厳」を学ぶ新教科「命と絆」を指導の柱とする教育課程を提案した小学校チームが、圧倒的多数の支持を得て、来年度のこの講義で、後輩たちにプレゼンテーションをする榮譽を勝ち取りました。



小中一貫校チーム代表者として、「宇宙科」の意義をプレゼン発表する横田威開教諭

### 『学校改善チャート』 学校組織マネジメントと学校評価

コース長の浅野良一教授の科目です。学校経営コースの二年間の「現状」と「ありたい姿」を整理し、そのギャップをうめて理想に近づいていくための方策プランです。3年後のビジョンを見据え、手を打つべき重点をどこに置るか。来年度の改善プラン作成に向けて、現任教改善のメインルートを明確にする演習だとも言えます。

「ありたい姿」に夢を語りつつも、現実的、実効性のある方策をイメージして改善チャートを作りました。各々の創造力が如何なく発揮され、大変に興味深い、面白い発表が続いています。



秋田県美郷町立六郷小学校の改善チャートを発表する小西裕之教諭

### 『危機管理マニュアル改善案』 学校危機管理の理論と事例演習

担当の客員教授、廣岡徹先生は長く県立教育研修所に勤務され、月刊『兵庫教育』を担当されていたこともあり、東播磨教育事務所所長や県立高校の校長を歴任された後、昨年度まで本学の教授として学校経営コースにおられました。

授業では、学校危機管理に関する基本的な考え方や、対応の方策について学びました。ケーススタディを行うことで、「学校経営」の観点から学校危機管理を実践していく知識・技量の向上に努めることができました。

災害時だけでなく、普段の業務の中に潜む危険。危機回避、危機管理はもちろん、学校事故が起こってしまった際に、どのように対処していくか。どんなに日々生徒のことを思って頑張っている、いざ生徒が被害を負った際には、裁判や損害賠償につながる場合もあるということを深く意識させられる機会となりました。

そんな学びの総仕上げとして、各自が現任校の危機管理マニュアルの現状と課題点を考察し、その改善案を作成、発表しました。「災害（津波）時の避難」「ネット被害対応」「来訪者への対応」など、それぞれの現任校の実情から、独創性にとんだ様々なマニュアルの提案が行われました。

発表を聞く中でも、更なる気づきを得ることが多く、大変有意義な課題でした。

『黙祷』  
20年前の1月17日の阪神・淡路大震災により、尊いたくさんの命が失われました。

学校経営コースの院生の中にも、当時、現場の教師として避難所となった学校で必死に働いた者や、ボランティアに駆けつけた者など、その時の記憶が鮮明な者がいます。

1月16日（金）の加東キャンパスでの専門科目の講義、及び、17日（土）の神戸ハーバーランドキャンパスでのゲストティーチャーの講義のはじめに、全員で黙祷し心からご冥福を祈りました。



神戸市立八多中学校の山端真司教諭の号令に合わせ、全員で1分間の黙祷。

『学校管理規則』

学校教育法制定論・教育行財政

五ヶ瀬町の元教育長であり、教育行政の専門家である日渡円教授に、教育関連法規の読み解き方について学びました。

今まで当然のように学校で行ってきた様々な教育活動の「根拠」について考え直す視座を得ることができました。

その学びを具現化するべく、現在、出身地及び校種を類する者がチームとなり、自分たちの『学校管理規則』の作成に取りかかっています。

「教育委員会制度の改正」など、今まさに様々な変革が進みつつある時代において、『学校管理規則』はどうあるべきか。必死に頭をひねっているところです。

多彩な講師による、ゲストティーチャー授業

カリキュラムの開発と  
特色ある学校づくり

「カリキュラムの開発と特色ある学校づくり」の授業では4回にわたり、様々なゲストをお迎えしカリキュラム開発やカリキュラムマネジメントについて講義をしていただきました。

■平成26年11月1日（土）

末松 裕基 氏

第1回目は東京学芸大学の末松裕基氏をお迎えし「教育経営が今、なぜ必要なのか？—スクールリーダーシップという視点から—」と題して講義をしていただきました。まず自分で気づくことが大事である等、現代の学校経営

（教育経営）に必要な視点をいただきます。

■平成26年11月16日（日）

緩利 誠 氏

第2回目は昭和女子大学総合教育センター専任講師の緩利誠氏をお迎えし「学校・カリキュラムを『自分たちで』変革する」学校組織開発とカリキュラムの自校化」と題して講義をしていただきました。「学校がやりたい実践・必要な組織づくりを行うべきである」教職員が「話す」こと

によって学校組織開発を進めていくことが大切であることを学びました。

■平成26年12月7日（日）

井上 正允 氏

第3回は元佐賀大学教授井上正允氏をお迎えし、カリキュラムについて「算数・数学」をキーワードに講義をしていただきました。中高一貫校での勤務経験から、「自分くずしと自分づくり」の時期の重要性や生徒が自分で「考える」みんなで「議論し、創り上げる」仕掛けの必要等、具体的な話を通して学ばせていただきました。

■平成26年12月14日（日）

磯田 文雄 氏

第4回は名古屋大学教授の磯田文雄氏をお迎えし、氏の著書である「教育行政—分かち合う共同

体をめざして—」を教材として講義をしていただきました。学校教育に求められているのは「新しい価値の創造」ができる能力である。これからの教育行政に何が求められるのかという観点から様々なお話を聞かせていただきました。

教育行財政の制度と運用

「教育行財政の制度と運用」の授業では国や都道府県、市町村の教育行政に関わる人をゲストにお迎えし、それぞれの立場から具体的な実践を通して考えておられることをお話いただきました。

■平成26年12月16日（火）

栗井 明彦 氏



これからの教育の在り方の一つとして、「アクティブラーニング」に注目していると話された栗井氏。

第1回目は文部科学省 初等中等教育局財務課 教職員配置計画専門官の栗井明彦氏をゲストティーチャーにお迎えして「教職員定数改善計画の経緯と今後の在り方」と題して御講演いただきました。

した。教職員定数のしくみから、新たな教職員定数改善計画策定の趣旨や概要等、最新の情報まで実にたくさんのお話を教えていただきました。

■平成27年1月7日（水）

浦郷 究 氏  
二見 吉康 氏

第2回目は佐賀県武雄市 教育長 浦郷 究氏をお迎えし、「武雄市の教育」について御講演をいただきました。話題となった「反転学習」についてもその意図や内容について聞かせていただきました。また、この日は広島県山県郡安芸太田町教育長 一見吉康氏にもお越しいただき、浦郷氏とともにシンポジウムに御参加いただきました。二見氏は文部科学省の教育制度分科会の臨時委員もしておられ、教育委員会の制度改革についてのお話も聞かせていただきました。



(左から) 二見吉康 浦郷 究 安芸太田町教育長 武雄市教育長





**教育長セミナー参加**

12月20日(土)～22日(月)、神戸ハーバーランドキャンパスにおいて、「全国市区町村教育長セミナー」が開催されました。同セミナーは、地方分権化の進む教育行政において重要な役割を担う市(区)町村教育長のリーダーシップを支援するとともに、情報交換の場を提供することを目的として行われます。4回目となる今年度は、全国から49人の教育長が参加しました。

1日目は、開講式が行われた後、オリエンテーションに引き続き、教育改革実践家の藤原和博氏による「藤原和博の創造的學校マネジメント講座」管理職は管理を超えてマネジメントせよ!と題した講話が行われました。午後からは、前川喜平文部科学省文部科学審議官による「教育政策の動向と課題」と題した講話が行われ、どの講話も参加者らは熱心に耳を傾けるとともに、活発な質疑が行われました。また、同日情報交換会が開催され、時間いっぱいまで積極的な情報交換が行われました。

2日目は、本学教育行政能力育成カリキュラム開発室及び事業協力をいただいている株式会社リクルートマネジメントソリューションズによる「リーダーのための課題解決スキル分析・構想」と題した講義とグループワークを取り入れた演習が行われ、参

加者らは演習課題に対して、積極的に提案するなど熱心に取り組んでいました。最終日の午前には、Peter Barley ロンドン大学教授(通訳:北川香 同大学研究員)による「学びのためのリーダーシップ」と題した講演が行われました。午後から、パネリストとして波佐間清下関市教育長及び水野和男東神楽町教育長を招き、本学学校経営コース日渡円教授をコーディネーターとして「これからの教育と教育長としての役割」と題した全体協議が行われました。参加者から提供された話題などについて、意見・質疑を交えた活発な協議となりました。

受講した教育長からは「同じ教育長の立場である皆さんと、集中した中で意見を出し合うことが新鮮で、とても勉強になりました」と感想が聞かれました。加治佐学長から「共通の関心を持った人たちがコラボレーションして、レベルの高いリフレクションを行うことが重要であり、そのような場を今後とも提供していきたい」と挨拶が行われ、3日間の全日程を終了しました。



これから求められるのは「情報編集力」。初の民間人校長としての和田中時代の「世の中科」の実践についても語られた藤原和博氏

**鼎談「新教育委員会制度について」聴講**



今まさに、現在進行形で行われている国の教育政策について話される前川喜平文科省文部科学審議官

1月13日(火)、兵庫教育大学において兵庫県小野市陰山教育長、本学加治佐学長、日渡教授の三名による「新教育委員会制度」をテーマとした鼎談が行われました。これは兵庫教育大学広報誌「教育子午線」の取材として設定されたもので、学校経営コース一年の院生も様子を聞くことができました。

まず、現在の教育委員会制度の問題点として、事務局提案事項がそのまま承認されることが多く、形骸化しがちな教育委員会の現状が出されました。また、来年度から首長が教育長を任命する新制度については、教育に過度に干渉する懸念があるのかもしれない、という意見もありました。

そこで、新制度における教育長に求められる資質として、現場の先生方に気持ちよく働いてもらうための経営力、校長会、教頭会、現場の先生方の考えを活かして

決定するマネジメント能力、そして選挙だけでない、いわゆる保護者や学校を含めた総合的な民意を理解し、システムとして改善していくリーダーシップ等が挙げられました。

また、将来構想として改革型の人材を育成するための教育長研修の場を充実していく必要性も出されました。

今回の鼎談を通じて、今後求められる教育長像が鮮明になると共に、新教育委員会制度についての研修を深める必要性についても認識することができました。



(左より) 陰山茂小野市教育長、加治佐哲也学長、日渡円学校経営コース教授

**先進事例校研究発表**

2年間を通じた講義「学校改善教育行財政実践課題研究」において、一年生が先進校事例、先進教育委員会事例の発表を行っていきます。前期に現任校描写、現任行財政描写を行い、組織改善に向けた課題を考察しました。そして、

その課題を解決する取り組みを行っている学校、教育委員会を選定し10月から1月にかけて訪問、調査を行ってきました。そこで知り得た取り組みの内容やアプローチの仕方から、現任校、現任教育委員会の組織改善に向けた示唆をまとめて、発表しています。

一人ひとりが1年間の学びをもとにレポートを作成し、プレゼンテーションを行っています。自分自身の課題を解決するための研究だけでなく、院生全員の学びを共有できるところにもこの講義の魅力があります。発表を聞いて疑問に思ったことや別の視点からの示唆など、発表後の質疑・応答においては参加者からの意見が会場内に飛び交います。

兵庫県小野市立小野中学校の事例を研究し発表する古寺弘憲教諭



奈良県御所市立葛城小学校の事例を研究し発表する小川晶弘教諭